

令和5年度「くまナビ評価問題」中学校英語 活用のポイント

中学校 英語 第2学年

領域「話すこと[やり取り]」「話すこと[発表]」

1. 作成の趣旨

本県の継続的な課題である「話すこと」の各領域において、即興でやり取りを行ったり、スピーチやプレゼンテーションなどのまとまった内容を英語で話したりする言語活動に関連して、「日常的な話題や社会的な話題に関して聞いたことについて、事実や自分の考え、気持ち、その理由などを話すことができる力」が身に付いたかどうかを見取ることをねらいとして、本問題を作成しました。

【関連する学習指導要領の内容】

- 「関心のある事柄について、相手からの質問に対し、その場で適切に応答したり、関連する質問をしたりして、互いに会話を継続する活動」〔エ 話すこと[やり取り](ア)〕
- 「社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことから把握した内容に基づき、自分で作成したメモなどを活用しながら口頭で要約したり、自分の考えや気持ちなどを話したりする活動」〔オ 話すこと[発表](ウ)〕
（「社会的な話題」を「日常的な話題」に置き換えて作成）

2. 活用場面等(例)

【活用場面】

○ 学期末等のパフォーマンス課題として活用することができます。実施時期のめやすは次のとおりです。

■New Horizon2 p.55終了後 ■Sunshine2 p.48終了後 ■Here We Go! 2 p.49終了後

○ 大問2は、「話すこと[発表]」の領域として設定していますが、更なる活用方法として、生徒が解答した内容を踏まえて、その内容についてALTまたは英語担当教員と英語でのやり取りを行い、「話すこと[やり取り]」の領域として併せて実施することも考えられます。

【留意事項】

○ 実施に当たっては、生徒には、視覚情報(スライド資料)を示しながら、ALTや英語担当教員が音声で読み上げながら実施、または本課HPに掲載している音声データを活用して実施します。なお、事前に音声を含む動画として準備し、一人一台端末を活用して個別に実施することも考えられます。

○ 各問題の英文や設定時間等については、各学校の実態等に応じて、適宜変更して構いません。

○ 評価については、その場で評価したり、ICT端末に録音した後で評価したりするようにします。

【活用後について】(テスト終了後)

○ 定着が不十分な生徒には、やり取りを通して、例えば、次のような手立てを個別に講じます。

★ 英文の内容が聞き取れていない場合…繰り返したり言い替えをしたりして、再度解答を促す。

★ 自分の言いたいことを英語で表現できない場合…知っている語句や表現で発話するように促す。

3. 「話すこと」における授業の充実に向けて

教科書本文等をフルに活用し、生徒が内容(考え)と英語(表現)を伝え合う統合的な言語活動に

教科書の本文内容等について、
聞いたり読んだりしたことを基に、
自分の考えや気持ち、理由などを
話したり書いたりする言語活動を設定

目的や場面、状況等に応じて
生徒が自ら既習表現などを駆使して
自分の伝えたい内容を表現する！

～年間を通して継続的に～

生徒が臆することなく
自信をもって
英語を使おうとする
態度の育成も大切

These days, taking pictures and video is getting easier.

Which do you often use to remember good times, pictures or video? I usually take video to remember good times. I think that video is better than pictures because it has sound.

出典：平成30年度全国学力・学習状況調査英語予備調査

What do you think?

Why?

生徒から情報や考えなどを引き出すために

Why do you think so?

How about you?等も活用する